

新 春 雑 感

農薬工業会会長 吉田 豊

あけましておめでとうございます。

光栄ある年頭の辞をご指名いただきましたので、なにはともあれ、まずは正月用語でご挨拶申し上げます。

ご承知の通り私どもは昨年10月より新年度を迎え、心を新たにして昭和52農薬年度に対応しております。昨年は石油ショックで蒙った後遺症の2年目で、なんとしてもこれを払いのけようと会員一同期待もし、それ相応の努力を積んだことでありますが、残念ながらトンネルを抜け出し得ないまゝ新年度を迎えることゝなりました。

私ども会員会社だけの数字ですが、50年度の生産実績は64万7千トンに対し、51年度は59万6千トンで、前年比92%までに自戒した結果となったものゝ、期末在庫は前年と略同量と推定されております。なかでも除草剤についてはこの傾向が顕著に現われております。

価格についても本年度は農業サイドの事情に押し切られ、私どもとしては滞足できない線で

決定され、忍従の状態を続けなければなりません。また需要の見通しについては国内では著しく減少することはないとしても、高い需要増は期待できないというのが大方の見方であります。

しかしながら、このような背景、事情にありながらも、世評を賑やかにしてきた安全性の問題も大筋は解決され、私ども胸を張って生産にいそしむことができるようになっております。また農業生産資材としての農薬の地位と使命は国際的にも国内的にもいよいよ定着度を固めたものと確信しております。

最近、私ども企業の新農薬開発意欲についてご懸念の声をときたま耳にしておりますが、このことは私どもにとっては死活の問題であり、難条件多々ありますなかではありますが、大いに意を燃やしておりますので、皆様方の一層のご指導をお願いいたします。

新春にふさわしくない泣きごとめいたことも申し述べましたが、この機会に心を新たに、一陽来復を念願してご挨拶いたします。

新 年 の 心 構 え

財団法人 日本植物調節剤研究協会会長 戸茆義次

昨年夏の夏作期間は全国的に低温で、馬鈴薯とてん菜以外の農作物は不作に終り、特に寒冷地